

「WBC 侍ジャパンに続こう！侍みゃーく！？めざせ『大腸がん検診』受診率沖縄県 1 位！」  
宮古保健所 健康推進班健康づくりグループ 穂積 大貴<sup>ほづみ だいき</sup>

宮古地区の働き盛り世代のみなさんへ健康情報をお届けするため、毎月 1 回リレー方式で記事を書いています。今回の担当は宮古保健所健康推進班健康づくりグループです。

宮古地区のみなさま、がんずうがんずううらまうなあー！WBC での侍ジャパン優勝に勇気と感動を頂きました。チーム一丸になれば達成できることも実感しました。次回大会も待ち遠しいです。

さて話は変わりますが、今回のテーマは「大腸がん」についてです。今や国民の 2 人に 1 人が“がん”になり、3 人に 1 人が“がん”で亡くなっていると言われていています。宮古保健所管内において男女ともにがん死亡が最も多く、令和 2 年の宮古地区で最も多いがん死亡は「大腸がん」です。

大腸がんは早期発見・早期治療で 90%以上が治癒に繋がります。初期の段階で見つける『大腸がん検診』を定期的に受けることで、大腸がんによる死亡を今よりも減らすことができます。大腸がん検診は、自宅で簡単にできる「便検査」です。便検査とは、トイレで便を 2 日間採取して提出する検査です。それで異常が見つかった場合に、医療機関で内視鏡（大腸カメラ）の検査となります。

しかし宮古保健所管内の大腸がん検診受診率は県平均より低い状況が続き、またコロナ流行が始まった R2 年度は前年より 1/3 と著明に減少しています。沖縄県が公表している保健所管内別の大腸がん検診受診率（平成 29 年度）では、宮古保健所管内は最下位という結果です。

そこで宮古保健所が事務局として開催している、宮古地区地域・職域連携推進会議では、今年度大腸がん検診受診率向上の取組を実施する予定です。侍ジャパンのように、選手のみならず（宮古地区にお住まいのみなさま、通称「侍みゃーく」？）や保健関係者などチーム一丸となって取り組み、大腸がん検診受診率沖縄県 1 位も目指して、侍みゃーくのみなさまの健康増進に貢献できたらと考えております。

がんは発見の早さが生存率に大きく直結する病気です。発見が遅れば遅れるほど治療の選択肢が狭まり、死亡のリスクが大きくなっていきます。がんは初期症状がほとんどありません。そのため自分が健康だと思っている人たちでも定期的な検診が必要です。定期的な検診や周りの人への声かけが、がんの早期発見に繋がります。

侍みゃーくのみなさま、自分のため、家族のため、地域全体のため、ぜひ『大腸がん検診』も定期的に受けましょう。

がん検診の案内については、後日お住まいの市町村から案内がありますのでご確認下さい。次は、宮古地域産業保健センターへバトンを繋ぎます。